

2021年3月22日

川口市長  
奥ノ木 信夫 様

川口市議議員  
碓 康雄  
木岡 たかし  
こんどう ともあき

**新型コロナウイルス感染症（COVID-19）を抑えるための要望書  
緊急事態宣言解除に際して**

1 現状

新型コロナウイルス（COVID-19）の第3次感染拡大に対応するために、一時、10都府県にまで拡大されていた「緊急事態宣言」は、2月28日に一部解除、その後、新規感染者数は下げ止まりとなっていました。埼玉県を含む4都県においても、3月21日をもって解除されました。しかし、変異株の拡大もうかがわれるなか、今後、新たな感染拡大が強く懸念されます。

2 ワクチン接種への期待と時間的課題

新型コロナウイルス対策の鍵となるのがワクチン接種です。しかし、国から自治体へのワクチンの配布も始まったばかりで、川口市へのワクチン第1便（約2,000名分）の到着は4月半ばの予定となっています。

川口市では、市内の病院、診療所等 約140ヶ所で行う「個別接種」と地域保健センターなどで行う「集団接種」を柱に接種を実施する計画となっています。今後、接種が迅速に進んでいくようになれば、感染拡大の抑止効果が期待されますが、市民に行き届くようになるには、まだ時間がかかることが見通されます。

3 PCR検査成果—これまでの川口市の対応

川口市保健所での検査のほか、民間検査機関での検査も行われています。陽性者に対しては、積極的疫学調査が行われています。第3次感染拡大のピーク時に、一部自治体で、積極的疫学調査による感染経路の追跡が困難になったとの報道がありましたが、川口市では、保健所職員を増員するなどの対応をした結果、調査を維持できたことは評価できます。

また、病院、高齢者福祉施設でのクラスターがみられることから、それを抑止するために、医療従事者、高齢者福祉施設でもPCR検査を実施してきました。これも、一定の効果をあげていると考えます。

#### 4 無症状感染者の捕捉のための PCR 検査の実施の必要性

積極的疫学調査によって感染源を特定することや、高齢者福祉施設等でのクラスター発生を抑止することは大切です。他方、市中にいる無症状感染者からの感染拡大対策はこれまで以上の取り組みが必要です。

埼玉県では3月1日から19日までの新規感染者数は2,107人で、このうち感染経路不明が36.7%となっています。川口市内での新規感染者数は、同期間で243名、このうち感染経路不明が38%にのぼっています。

このことは、市中に一定割合の無症状感染者がいることを示しています。市中の無症状感染者を発見することは、感染経路不明の感染者を減らしていくことにつながります。変異株の増加が懸念される中、第4次感染拡大を防止することにもつながる施策として重視すべきです。そのために、無症状の市民を含めて、幅広く PCR 検査を行うことが必要です。

#### 5 川口市で無症状者に対する PCR 検査の実施を

埼玉県では、緊急事態宣言解除後の対策として、主要駅や事業所などで検査キットを配布したと報道されています。

3月中の10万人あたりの新規感染者数を比べると、埼玉県全体では1.511人/日で、川口市では2.106人/日となっており、川口市の感染者数の方が多いです。川口市においてより一層の対策を講ずる必要があります。そこで、以下、要望いたします。

- ・ PCR 検査については、県に任せるだけでなく、川口市においても独自に無症状の市民が PCR 検査を受けられる仕組みを整備すべきです。  
また、検査結果は本人に通知されるだけでなく、市にも通知されるべきです。
- ・ 上記検査を実施する場合は、主要駅や事業所だけでなく、ワクチン接種の機会を活用して幅広い市民が参加できるよう検討すること
- ・ 上記検査を実施する場合は、介護関係者など、日常的に身体的接触が多い業務に従事する方を対象とすること
- ・ 上記検査を実施する場合は、仮放免中の外国人など、住民基本台帳に掲載されていない市民も対象にすること

以上